

# 平成 22 年度事業報告

社団法人日本文藝家協会

## 【概要】

平成 21 年 2 月に始まった日本でのグーグル問題に起因して、平成 22 年は日本国内でも書籍検索制度や電子書籍出版への動きが急速に高まり、この年は「電子書籍元年」「電子出版元年」とも呼ばれた。出版界では 2 月に大手出版社 31 社が参加した日本電子書籍出版社協会が設立され、日本文藝家協会も 3 月理事・評議員合同会で電子書籍出版検討委員会（歌田明弘委員長）を発足させ、知的所有権委員会（三田誠広委員長）と合同の委員会を頻繁に開催、電子書籍出版に対応する諸問題の検討に入り、引き続き新しい時代に応じた電子書籍出版契約書の雛型作成作業を続けている。

電子書籍出版に関しては、総務・経済産業・文部科学の三省が「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」（三省デジ懇）を立ち上げた。省庁が垣根を越えて一つの問題に対処しようとするのは異例のことであった。文藝家協会も同懇談会に様々な要求を出したが、同懇談会の提言は予算化され、新 I C T（情報通信技術）利活用サービス創出支援事業として電子書籍出版に不可欠の国内ファイル共通フォーマットなどの研究開発が進められている。国立国会図書館の蔵書デジタル化も急速に進行しており、その利活用をめぐる活発な論議が続いた。教育界ではデジタル教科書・電子黒板の使用も準備的に始まっている。一方でインターネットでの著作物の内外への違法な流失も目立っており、文藝家協会もその対応策を協議し、年度末には、問題が発生した場合に理事長名で迅速に抗議声明を出す方策を承認した。

20 年 6 月から 17 回に及ぶ公益法人制度改革検討委員会を開催して検討してきた公益社団法人への移行は、年度末の 23 年 3 月 22 日に正式に認定通知があり、4 月 1 日付けで登記を完了した。協会は「公益社団法人日本文藝家協会」と称し、これまで以上に文芸家の職能と権利を擁護し、日本の文化全般の発展のために貢献する活動を続ける覚悟を固めている。

23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災者支援のため、日本図書館協会からの同 25 日付け「協力依頼」に、文藝家協会も賛同、支援の輪に加わるようになった。これは被災地の図書館が機能しなくなっており、被災者に必要な情報と癒しを提供するため、書籍のコピーやデータ、朗読等の録音・録画データを送信できるようにするもので、本来ならそれぞれの著作権者の許諾を得なければならないが、未曾有の事態のただ中にある被災者支援のために、入手困難な時期と地域に限り一括して許諾することとし、理事長名で図書館協会からの依頼に応じた。

## 【各事業の状況】

### 1 著作権の保護及び著作物に関わる権利の普及

- ① 6月、文化庁文化審議会著作権分科会法制問題小委員会「権利制限の一般規定に関する中間まとめ」に関して「日本版フェアユース」とも呼ばれた同規定導入に重ねて反対の意見書を提出した。
- ② 新聞社による書籍・新聞等のデジタル化の動きが急で、契約書等による要求は著作権者にとっては全く容認できないケースも少なくなく、某社からの将来に亘っての無制限で一方的な許諾要請に対しては7月理事会でも大きな疑義が出て、文藝家協会ニュースと当協会ホームページで警告を発した。
- ③ 雑誌のデジタル有料配信について日本雑誌協会から提案があり、当協会と日本写真著作権協会が呼応する形で配信ガイドラインを検討、共同提案に漕ぎつけて、三者は11月29日に記者発表した。当協会としては一定期間内とはいえ著作権の一部を雑誌発行事業者に譲渡することになり、特段の取り決めがない限り配信使用料が支払われないことなど、不満の残るガイドラインではあるが、厳しい状況下にある雑誌に新たな活路を拓く必要があると判断し、共同提案となった。
- ④ 「コンテンツポータルサイト」に参加し、経済産業省支援のポータルサイトを通し世界に向けて日本版コンテンツの普及に努めた。
- ⑤ 出版物貸与権センターに参加し、貸与権についての普及に努めた。
- ⑥ 11月1日、教育関係の著作物利用について、全国の大学や私立中学・高校、都道府県教育委員会へ「入試問題に関する要望書」を発送。入学試験で著作物を使用する場合に著作権・著作者人格権を十分に尊重していただきたいと要望した。

### 2 著作権管理業務

22年度、協会の著作権管理委託者は3600名を超えた。協会はさらに会員外にも委託者を増やし、委託者・使用者双方の利便性を拡大する

### 3 文学ファンのための文学イベントの開催

- ① 5月30日、米子・今井書店と共催でトークショー「生きること、書くこと」として開催。講師＝津村節子氏。聴衆120名。
- ② 6月12日、神保町・東京堂書店と共催でトークショー「『文学2010』刊行記念—小説の力、本の楽しみ」として開催。講師＝磯崎憲一郎・村田沙耶香・川村湊の各氏。聴衆約50名。

### 4 文学碑公苑講演会の開催

富士霊園内の文学碑公苑にちなみ講演会を開催し、文学への関心を高めるために、一般の文学ファンを対象に募集し、講演会を開催した。講師＝大岡玲氏。演題「事物と言葉のはざまで一開高健の戦い」。参加者40名。

### 5 新しい会員の迎え入れ

協会入会委員会で審議、承認を経て、理事会で入会を可決・承認した。平成22年度は委

員会を6回開催。推薦入会者を加え、新入会員101名を迎えた。

#### 6 「文藝家協会ニュース」の発行

定期的に「文藝家協会ニュース」を発行し、会員、準会員、関係団体等に送付し文芸の普及と著作権思想の普及に努めた。

#### 7 協会編纂物を刊行

平成22年度は次の年次刊行物を編纂し刊行した。

##### ① 「文藝年鑑」平成22年版

6月30日、新潮社発行。定価4200円

編纂委員＝青山南、川村湊、紀田順一郎、曾根博義、沼野充義、三浦雅士

##### ② 「文学2010」

4月26日、講談社発行、定価3300円

編纂委員＝秋山駿、川村湊、島田雅彦、中沢けい、沼野充義

##### ③ 「代表作時代小説」平成二十二年度

6月25日、光文社発行。定価2200百円

編纂委員＝安西篤子、磯貝勝太郎、伊藤桂一、縄田一男

##### ④ 「短篇ベストコレクション 現代の小説2010」

6月15日、徳間文庫として出版。定価876円

編纂委員＝川村湊、清原康正、長谷部史親、森下一仁

##### ⑤ 「ベストエッセイ2010 この星の時間」

6月20日、光村図書出版発行。定価2000円

編纂委員＝高田宏、林真理子、増田みず子、三浦哲郎、三木卓